

証券市場と中国大企業の経営効率化

趙 形基 (明治大学大学院)

近年、中国経済の急速な成長とともに、中国証券市場の発展が著しい。その中で、企業による規模拡大に伴って増加する資金需要は、証券市場の成長に大きく貢献している。

世界工場と呼ばれる中国では、製造業が国内外の市場へ製品を作り出すために、徹底的に生産の効率化を図っている。先進国の企業と競争するために、後発企業として多くの中国企業はコストリーダーシップ戦略によって競争優位を築いた。

その中で、標準化された製品の生産の効率化を試みた。このように、標準化された商品の生産効率化は可能となるのは、製品設計におけるモジュール化の浸透である。つまり、企業は製品のバリューチェーンにおいて、部分的に参入しても、利益獲得が可能となる。従って、資金分配が製造工場、販売ルートの構築に優先して、基幹部品の開発は後回しにするようになった。

しかし、市場における製品の類似化は収益に影響を与えるため、差別化を高めるために、基幹部品の開発を始めた。それによって、大規模な資金が必要となり、資金回収が長期化になると考えられる。

ところが、中国では、日本の系列企業のような企業関係が存在しないため、安定的な資金供給が重要な課題となった。このように、証券市場は製造業の資金調達の変化に応じて、資金供給の役割が期待される。

本報告では、中国と日本の家電企業の事例を用いて、資金供給の役割を果たす証券市場の役割と生産の効率化による資金需要の変化について関係を分析する。さらに、モジュール化製品からインテグラル化製品へシフトしようとする中国企業の資金需要の拡大に向けて、証券市場の調達機能を検討する。